

修士論文（要旨）

2019年1月

中国大都市部における高齢者の宗教的態度と  
その生活満足度と精神的健康への影響

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

216J6006

黄佳樂

Master' s Thesis(Abstract)

January 2019

The Effects of Religious Attitudes on Life Satisfaction and Mental Health  
among the Elderly Living in a Metropolitan Area of China

HUANG JIALE

216J6006

Master' s Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

## 目次

第一章 はじめに.....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 中国における研究の到達点と課題.....	1
1.3 研究目的と仮説.....	2
第二章 研究方法.....	2
2.1 調査対象と方法.....	2
2.2 測定.....	3
2.3 統計解析法.....	5
2.4 倫理的配慮.....	6
第三章 結果	
3.1 回答者の特性.....	6
3.2 重回帰分析の結果.....	6
第四章 考察.....	6
参考文献	

## 1. はじめに

### 1) 研究背景

中国が「改革開放政策」を実施してすでに 30 年以上になる。それにより、中国の大都市部では特に仏教や道教、キリスト教、イスラム教は次第に復活し、宗教活動の復興が目覚ましい勢いで進展している。そのため、中国においても、欧米と同様に、宗教的態度が高齢者の生活や健康に与える効果について研究が必要となっている。

### 2) 中国における研究の到達点と課題

宗教的態度については、制度的な宗教への関与と死生観の大きく 2 つの概念で構成される。中国では、宗教的態度のうち制度的な宗教への帰属が主観的幸福感あるいは生活満足度に有意な影響があることが明らかにされている。さらに、中国農村部の高齢者を対象とした研究では、宗教信仰を持つ高齢者が死亡に対する態度が積極的で、死に対する恐怖感が低いことも明らかにされている。しかし、中国については、宗教的態度のうち死生観の生活満足度や精神的健康に与える効果、さらには、ストレスフルな状況の生活満足度や精神的健康への悪影響を制度的宗教への関与や死生観などの宗教的態度が緩衝する効果があるか否かについては研究がない。

### 3) 研究の目的

中国の大都市部の社区に居住する高齢者を対象に、制度的宗教への帰属と死生観で評価される宗教的態度がそれぞれ生活満足度と精神的健康に与える影響を明らかにする。影響を分析する際には、その直接効果のみでなく、ストレスフルな状況（例えば、経済的貧困、病気への罹患など）の生活満足度や精神的健康に対する悪影響を軽減する効果についても明らかにする。

## 2. 研究方法

### 1) 調査対象と方法

本研究の対象は、上海市静安区の S 社区の集合住宅に在住する 65 歳以上の人 200 人であった。調査方法は自記式調査票を用いた調査であった。調査協力への内諾が得られた対象者に対して、個別に居民委員会に来てもらい、再度、調査の主旨、方法、倫理的な配慮を記した調査協力依頼の文書を用いて説明し、協力の意思を確認した上で対象者に調査票を配布し、記入後に回収した。調査期間は 2018 年 5 月 20 日から同年 6 月 20 日までであった。回収された調査票は 200 票であった。項目に欠測がない 196 票を分析に用いた。そのため、配布数に対する有効回収率は 98%であった。

### 2) 測定

#### (1) 従属変数

生活満足度は Neugarten らによる生活満足度尺度 (Life Satisfaction Index : LSI) の短縮版、精神的健康は Geriatric Depression Scale (GDS) 短縮版で測定した。

## (2) 独立変数

宗教的態度は、1998年に実施された International Social Survey Programme (ISSP) 「宗教意識調査(その2)」で使用されている宗教的態度を測定する尺度を用いた。この尺度は、本研究で測定を目指す宗教的態度の2つの概念、すなわち制度的宗教関与と死生観の2次元で構成される。

ストレスフルな状況については、経済、自立度および悪い影響のイベントの経験の面から評価した。調整変数には年齢、性、世帯構成、就学年数、疾患罹患数、ソーシャルサポートを用いた。

## 2) 分析モデル

宗教的態度の生活満足度と精神的健康に対する直接効果については、生活満足度とうつ尺度それぞれを従属変数に、独立変数として宗教的態度、ストレスフルな状況の変数、さらに調整変数を同時に投入する重回帰分析を行い、その効果を検証した。ストレスフルな状況が、生活満足度と精神的健康に与える悪影響を、宗教的態度が緩和する効果があるか否かについては、直接効果のモデルに宗教的態度とストレスフルな状況との交互作用項を加えることで検証した。

## 3. 結果

宗教的態度の生活満足度とうつ症状に与える効果については、制度的宗教関与が高い人では生活満足度が有意に高かった。うつ症状については、宗教的態度の2変数は有意な効果を持っていなかった。ストレスフルな状況が生活満足度やうつ症状に与える効果を、宗教的態度が緩和するか否かについての分析結果については、罹患疾患数と制度的宗教関与の交互作用項が有意な効果を持っていた。交互作用を解釈した結果、疾患罹患がうつ症状を増悪させることを制度的宗教関与が抑止している、すなわち緩衝効果が明らかとなった。

## 4. 考察

本研究では、宗教的態度の中で制度的宗教関与が生活満足度に有意な効果があることを明らかにした。他方、本研究では、制度的宗教関与がうつ症状を抑制する効果は観察されたものの、有意なものではなかった。しかし、中国では、朱らは制度的宗教関与がある患者でない患者よりうつ症状が高いという結果を示しており、逆の結果が得られている。欧米では、Pokorskiは年齢が高い人では制度的宗教関与がうつ症状を抑制する効果が弱いことを明らかにしており、本研究と類似の結果が得られている。以上のように、同じ中国でも異なる知見が得られており、本研究の知見の一般化には慎重になる必要がある。死生観については、本研究では、生活満足度とうつ症状にいずれに対しても有意な効果を持っていなかった。死生観は、死に直面

するような危機的な状況に際して、その生活満足度や精神健康に対する悪影響を防ぐ効果が期待されるものの、このような危機的な状況でない場合には、生活満足度や精神的健康に対してそれほど効果がない可能性もある。しかし、制度的宗教関与、死生観のいずれも生活満足度や精神的健康への直接的な効果を検証した研究事例が少ないことから、結論を導くには早計すぎる。中国における追試が必要である。

ストレスフルな状況の生活満足度や精神的健康への悪影響を、宗教的態度が緩衝するか否かについては、本研究では、疾患罹患がうつ症状を増悪させることを制度的宗教関与が抑止している、すなわち緩衝効果が明らかとなった。中国においては、死亡への恐怖が弱まり、疾患の痛みが緩和できることが明らかにされている。本研究では、疾患への罹患という危機的な状況であるものの、しかし、ホスピスに入所という、死期が目前に迫っている切迫した状況ではない場合でも、そのうつ症状の増悪効果を、制度的宗教関与が軽減させる可能性が示唆された。

死生観については、ストレスフルな状況が生活満足度やうつ症状に与える悪影響を有意に緩衝する効果は観察されなかった。本研究で測定された宗教的死生観は中国における伝統的死生観とかなり共通している。伝統的な死生観では、死というものが自然なものであり、忌み嫌うものとして捉えられていない。曾は、上海の高齢者の75%がそもそも死に対して恐怖感をあまり感じていないということを明らかにしている。このような知見の背景には、中国における伝統的な死生観の存在があると思われる。したがって、中国における伝統的な死生観が多くの高齢者に根付いており、本研究で測定した死生観のばらつきが多くないことから、ストレスフルな状況の影響を緩衝するという効果を抽出することができなかつた可能性がある。

本研究の限界については、第1に、宗教的態度に関する尺度の妥当性に関する問題である。中国における妥当性の再検証を行う際には独自の尺度の開発が必要かもしれない。第2は、対象者が大都市部の一つの社区に居住する高齢者に限定されていた点である。他の大都市部に居住する高齢者や農村部に居住する高齢者を対象とした研究を行い、本研究の知見の妥当性を検証する必要がある。

## 文献

- 1) 黄強：上海市民衆の宗教信仰活動の実態：仏教寺院と道教施設の定例的行事を中心として。貿易風：中部大学国際関係学部論集：Chubu international review, (10)：196-216. (2015)
- 2) 中国的宗教现状  
(<http://tzb.gzmu.edu.cn/info/1018/1115.htm>) (2017)
- 3) 卢云峰：当代中国宗教状况报告—基于 CFPS (2012) 调查数据。世界宗教文化, 1: 11-25Lu. (2014)
- 4) 金児恵：日本人の宗教的態度とその精神的健康への影響：ISSP 調査の日米データの二次分析から。死生学研究, 3：348-367. (2004)
- 5) 王武林：中国老年人的宗教信仰与主观幸福感. (2012)
- 6) 伍嘉誠, 寺沢重法：香港における高齢者の主観的ウェルビーイングにおける宗教の役割：貫道の高齢信徒へのインタビュー調査から。宗教と社会貢献, 5(1)：1-27. (2015)
- 7) 丁志宏：宗教信仰对降低中国老年人抑郁的作用。中国老年学杂志, 2(34)：462-464. (2014)
- 8) 馮雪, 宋璐, 李树苗：宗教信仰对农村老年人死亡态度的影响。人口与发展, (3)：93-100. (2017)
- 9) 寺沢重法, 横山忠範：「死後の世界を信じること」と幸福感：JGSS-2008 の分析。宗教と社会貢献, 4(2)：1-25. (2014)
- 10) 2017 年中国上海人口老龄化现状及发展趋势分析  
(<https://m.chyxx.com/view/645507.html>) (2017)
- 11) 王桂新, 魏星：大都市都心地区人口減少与高齢化的考察—以上海市静安区为例。人口研究, 27(4)：78-85. (2003)
- 12) 百度百科—静安区  
(<https://baike.baidu.com/item/%E9%9D%99%E5%AE%89%E5%8C%BA/1633650?fr=aladdin>) (2018)
- 13) 中国老人如何在家养老？有个上海方案不妨一看  
(<https://m.jiemian.com/article/2374122.html>) (2018)
- 14) 彭伟霞：上海市静安区老年人健康期望寿命及其对策研究。復旦大学博士論文. (2013)
- 15) 静安区破解人口老龄化问题 打造老年宜居社区  
([http://shzw.eastday.com/shzw/G/20150512/ulail49130\\_K194.html](http://shzw.eastday.com/shzw/G/20150512/ulail49130_K194.html)) (2015)
- 16) Neugarten B.L., Havighurst, R.J. and Tobin, S.H.: The measurement of life satisfaction, Journal of Gerontology, Vol.16, No.2, pp.134-143, (1961)
- 17) Wood, V., Wylie, M.L. and Sheafor, B.:An analysis of a short self-report measure of life satisfaction:Correlation with rater judgments, Journal of Gerontology,

- Vol. 24, No. 4, pp. 465-469, (1969)
- 18) 範肖冬：生活满意度量表. 中国心理卫生杂志. (1993)
  - 19) Brink TL, Yesavage JA, Owen L, Heersema PH, Adey M, Rose TL. Screening Tests for Geriatric Depression. Clin Gerontol. 1(1), 37-43. (1982)
  - 20) 梅錦荣：老年抑郁量表和普通健康问卷(简本)信度和效度的研究. 中华精神科杂志, (32)1 : 41-3. (1999)
  - 21) 東京都老人総合研究所, ミシガン大学. 中高年者日米比較調査(1996)
  - 22) 古谷野亘:地域老人における活動能力の測定をめざして. 社会老年学, (23) :35-43. (1986)
  - 23) 馬利中, 沈妍：上海老年人的健康和医疗现状及对策探讨. 人口, (1999)
  - 24) Zimet GD, Powell SS, Farley GK, et al.:Psychometric characteristics of the Multidimensional Scale of Perceived Social Support. J Pers Assess ; (55) :610-7. (1990)
  - 25) 謝倩, 陈谢平, 张进辅：大学生犬儒态度与生活满意度的关系：社会支持的调节作用. 心理发展与教育, (2011)
  - 26) Ayele H, Mulligan T, Gheorghiu S, et al.:Religious activity improves life satisfaction for some physicians and older patients. Journal of the American Geriatrics Society, 47(4): 453-455. (1999)
  - 27) Roh H W, Hong C H, Lee Y, et al. Participation in physical, social, and religious activity and risk of depression in the elderly:a community-based three-year longitudinal study in Korea. PloS one, 10(7):e0132838. (2015)
  - 28) 朱俊鹏, 谭云飞, 廖峥变：宗教信仰对病人生活质量和抑郁情绪影响的初步研究 2013 年浙江省医学会精神病学分会老年精神障碍学组学术会议论文汇编. (2013)
  - 29) Pokorski M, Warzecha A. Depression and religiosity in older age. European Journal of medical research, 16(9):401. (2011)
  - 30) 小谷みどり：死に対する意識と死の恐れ. 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部編 ( ライフ デザイン レポート ), URL= <http://groupdai-ichi-life.co.jp/diri/ldi/report/rp0405.pdf>, (2004)
  - 31) 陈旭, 陈进：老龄化背景下对宗教临终关怀需求的解读. 新疆大学学报：哲学. 人文社会科学版, (2) : 23-27. (2014)
  - 32) 海波：宗教的临终关怀. 中国宗教, (3) : 60-62. (2012)
  - 33) 杜明红：佛学生死观在临终病人护理中的应用. 中国保健营养 ( 上旬刊 ), (2014 年 07) : 4019-4019. (2014)
  - 34) 曾建国：上海城市老年人生死观的调查研究. 心理科学, (5) : 54-55. (1992)



